

H29年秋期の堅果類等の豊凶とツキノワグマの出没予測（H29年10月4日）

中山間地域研究センター

1. 目撃、被害、捕獲の状況

今年度の上半期のクマの目撃件数（被害、痕跡、捕獲件数を含む）は5～7月に多かった。一方、捕獲数は、5月にやや多く、8月にピークがあったが、錯誤捕獲が89%と多くを占めた（図1）。このうち、5月は繁殖期に入ったオス個体が活発に活動することと警戒心の少ない若いオスの分散過程のなかで人里付近へ出没した個体の捕獲が多かったと推測される（図2）。また、8月は春～夏季の餌（新芽・若葉、タケノコ、ウワミズザクラなど）から秋季（堅果類、液化類など）の餌に移行する端境期で餌不足による出没が多かったと考えられる。6～9月には益田、浜田、県央および雲南地域では集落内に出没した個体が目立った。このうち、8月には益田、浜田および雲南では青カキの食害が数件あった。昨秋の大量出没時はカキの被害が多かったが、この時にカキの味を学習した個体が食害したと推測される。ただし、大量出没年にみられるクマが農作物等に執着して、被害が継続する状況は認めなかった。

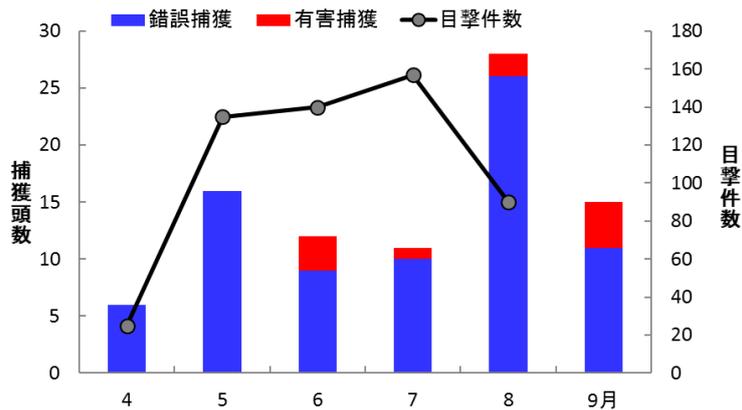


図1 H29年4～9月の目撃件数と捕獲頭数

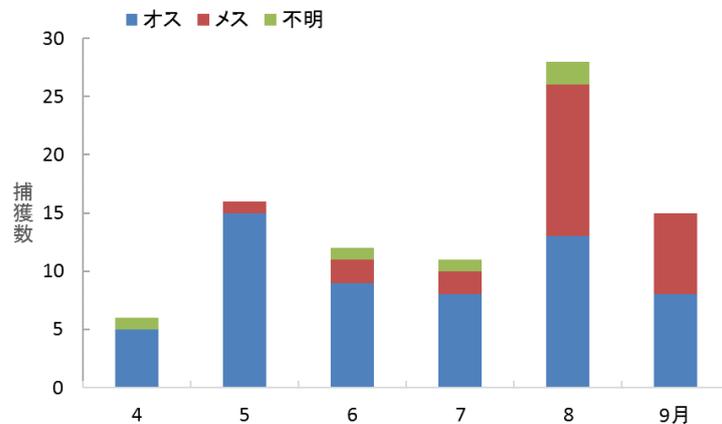


図2 H29年4～9月の性別の捕獲数

2. 堅果類等の豊凶の状況（目視による暫定値）

クマノミズキ：並作

シバグリ：豊作

コナラ：豊作

アラカシ：豊作

ミズナラ（西部地域）：並作

ミズナラ（東部地域）：やや並作

ブナ（西部地域）：並作

ブナ（東部地域）：凶作

3. 今後の出沒予測

9月にはクマノミズキなどが多く実ったために出沒が減少したと考えられる。10月以降もシバグリ、コナラなどが実ると予想されるので、人里への出沒や被害発生は増加しないと予測する。なお、ミズナラとブナは並作以下であるが、本県の分布域は高標高の地域に限られるので大きな影響はないと考えられる。

今後、4月以降の捕獲個体の年齢（放獣個体も含む）、胃内容物、栄養状態などを調査して、5～8月の出沒との関連を分析する予定である。

西中国地域全体での堅果類等の豊凶の評価は、現在山口県農林総合センターにおいて3県の調査データを集計して分析中である。